

会 議 記 録			
会議の名称	予算特別委員会（全体会）		会議場所 全員協議会室 担当職員 加藤 太郎
日 時	令和5年3月17日（金曜日）		開 議 午前10時30分 閉 議 午前10時53分
出席委員	◎富谷 ○浅田 松山（総務文教分科会◎）大塚（環境市民厚生分科会◎）木村（産業建設分科会◎） 竹内 大西 林 法貴 小林 大石 土岐 片山 原野 山木 梅本 小川 福井 三上 山本 平本 齊藤 西口 <菱田議長>		
執行機関 出席者			
事務局 出席者	井上事務局長、数井次長、加藤副課長兼議事調査係長、佐藤主任、小野主任		
傍 聴	可	市民1名	報道関係者0名 議員0名（-）

## 会 議 の 概 要

10:30

[富谷委員長 開議]

[事務局長 日程説明]

### 1 予算審査

#### (1) 市長質疑項目

- ・各分科会の報告～全体会の決定

#### <富谷委員長>

各分科会審査で抽出された市長質疑項目は、お手元配付の一覧表のとおりである。本日の全体会では、それぞれの分科会で決定された市長質疑の内容について、分科会委員長から審査の経過、選定した理由、詳細等を報告いただく。各分科会委員長の報告後に質疑をいただき、全体会で十分に内容を共有した中で、予算特別委員会全体会の市長質疑項目として決定していきたい。

[総務文教分科会報告]

#### <松山総務文教分科会委員長>

総務文教分科会が抽出した市長質疑3項目を述べる。1点目は、市長公室所管、広報経費のローカルプレス発行業務委託料である。朝日放送との協定により若手職員等が亀岡市の新たな魅力を発見しようと考えた中から、事業化したとのことであるが、単発の事業であることから、事業目的と事業効果をどのように考えているかを市長に聞きたい。2点目は、同じく市長公室所管のSDGs推進経費である。2030年の目標年度に向けて市民や企業への啓発は進んでいるのか。市民が参画しやすい環境づくりの今後の展望についてどのように考えているのかを市長に聞きたい。3点目は、生涯学習部所管、生涯学習推進経費のガレリアかめおか関連予算である。ガレリアかめおかについては、皆さん承知のとおり、これまでからいろいろと議論があり、施設の長寿命化計画をつくられていることはさることながら、施設運営や建物の管理体制について、「民間でできることは民間で」を基本として、今後どのようにガレリアかめおかの維持管理を考えているのかを市長に聞きたい。以

上、総務文教分科会で抽出した3事業の論点と主旨説明である。

<富谷委員長>

ただいまの報告に対する質疑はないか。

—質疑なし—

[環境市民厚生分科会報告]

<大塚環境市民厚生分科会委員長>

環境市民厚生分科会では、市長質疑項目の抽出に2項目を挙げた。まずは健康福祉部所管の重層的支援体制整備事業経費である。これは令和6年度から本格的に実施される事業であるが、高齢者、障がい者、子ども、生活困窮者等、複合的で複雑な課題を多く抱えている人が増えている状況の中で、市役所内の各所管にまたがる事業となるものである。課題としては、専門職が対応する必要がある中で、専門職の採用は大変難しく、現場で職員を育てていくことが現実的に起こっている。そのようなことを含めて市長に見解を聞きたい。二つ目は、こども未来部所管の家庭相談員等設置経費である。この問題は、困難な状況に置かれている子どもたちの根本的な問題解決に向けて、ヤングケアラー実態調査の結果をどのように活用していけばよいのか。予算としてはついているが、この予算をどのように生かすかがまだ決まっていない。福祉の問題だけではなく、教育とも関わっている中で、今後どのような方向で進めていくのかについて、市長に見解を聞きたい。

<富谷委員長>

ただいまの報告に対する質疑はないか。

<福井委員>

重層的支援体制整備事業が多くの所管にまたがることは理解できるが、資料の論点だけを読むと、重層的支援体制整備事業経費について、いわゆるいろいろな組織・機構や財政整備に使うつもりなのかを聞くということか。もう一点、家庭相談員等設置経費について、ヤングケアラー実態調査がされた結果は、分科会として承知しているのか。

<大塚環境市民厚生分科会委員長>

重層的支援体制整備事業経費に関する予算については、今までは一括して措置されていたが、今後は各所管課へ予算が配分され、これまでとは変わってくると言われている。そのような予算配分で各所管課ではどのような使い方がされるのかを聞きたいと思っている。もう一点について、今回新たにヤングケアラーのコーディネーターが配置されると聞いているが、亀岡市として詳しい実態調査はまだされていない状況である。

<福井委員>

重層的支援体制整備事業経費の論点については、なんとなく理解した。家庭相談員等設置経費については、ヤングケアラー実態調査の結果をもとに、根本的な解決に向けた活用についてを市長質疑としている。今議会の一般質問では、ヤングケアラー実態調査はできていないと答弁があったのではないか。実態調査ができていないのであれば、調査結果を使ってと言うことではないと思う。実態調査もするべきということか。

<大塚環境市民厚生分科会委員長>

そのとおりである。

<富谷委員長（環境市民厚生分科会副委員長）>

私も環境市民厚生分科会の副委員長として審査に入っているので整理させていただく。今回の予算でヤングケアラー実態調査を実施されることとなるが、調査の実施後にその結果をどのように問題解決に使っていくのかを市長に見解を求めたいと分科会では意見が出ていた。

<福井委員>

分かった。

[産業建設分科会報告]

<木村産業建設分科会委員長>

産業建設分科会では、産業観光部所管、商工業振興対策経費の産学官連携事業補助金に係るオープンイノベーションセンター・亀岡について、今後どのように運営し、最終的な展望はどうあるのか。また、サンガスタジアム・イノベーション・フィールド実証支援事業は、オープンイノベーションセンター・亀岡の各事業にどうつながっていくのかを論点として、市長に今後の展望を聞きたいと考えている。亀岡市の補助金として、初年度の令和4年度2億2,000万円、令和5年度1億2,000万円、令和6、7年度が各3,000万円で、合計4億円の支出が予定されている。また、先日サンガスタジアム・イノベーション・フィールド実証支援事業の経過が報告されたが、その実証による企業の成果についても、オープンイノベーションセンター・亀岡に反映させていくとの説明であった。今後、亀岡市の発展や企業誘致にどのようにつながっていくと考えているのか。また、食品開発センターはもともとビール発酵関係で建てられたようであるが、今のところ活用されていないといった意見もあった。今後の予算計画では、OICK収入として、2年目の令和5年度には3,600万円の収入予算が計上されており、これについては研究費のほうでやっていかれると聞いている。令和4年4月に社会連携支援室を立ち上げられて進められているが、今後の事業展開が亀岡市にどのように反映されていくのかがポイントであり、そこを市長に聞くためにこの事業を抽出させていただいた。

<富谷委員長>

ただいまの報告に対する質疑はないか。

<松山総務文教分科会委員長>

2点聞きたい。1点目はOICKについて教えていただきたい。また、亀岡にとって産学官連携は非常に重要であると認識しているが、質疑でどのような具体的な議論があって市長質疑項目に抽出されたのかということが今一つ明確に見えない。ある程度分科会として把握していると思うので、具体的にこのような点が分かりにくいため市長に聞かなければならないということをもう少し詳細に教えていただけるとありがたい。

<木村産業建設分科会委員長>

OICKについては、京都先端科学大学京都亀岡キャンパスの未利用施設・未利用地を活用するなど設備を整備し、モビリティイノベーション実証施設、グリーンイノベーション実証施設である太陽光発電を用いたスマートアグリハウス等、そしてオープンイノベーション推進棟、これらがOICKの全体的なイメージである。このキャンパスを核に、大学の知識、技術や地域の資源を活用して、産学官連携事業を推進することにより、次代を担う人材の育成を図るとともに、先端技術による産業イノベーションやバイオ技術による農業の高付加価値化を支援し、地域経済の活性化と日本経済の持続的な発展に貢献することを目的とされる事業であり、本市か

らかなりの補助金が出ているものである。また、先日報告があったサンガスタジアム・イノベーション・フィールド実証支援事業では、ドローンや顔認証システムのことも出てきており、顔認証システムについては、村田製作所とのコラボの話もあった。そういったことをオープンイノベーションセンター・亀岡に持ってきて、今後の展開としてどのように亀岡市のために活かされていくのかを聞きたいと考えている。細かいことは市長質疑の答弁にあると思うが、要は亀岡市に対する貢献がどのようにされるのかがポイントである。

<松山総務文教分科会委員長>

分かった。

<平本副議長>

市長質疑項目に抽出される前段として、産業建設分科会の中でこういった質疑や意見があり、こういった議論に至ってこれが出たのか。その概略でよいので紹介いただきたい。

<木村産業建設分科会委員長>

サンガスタジアム・イノベーション・フィールド実証支援事業やオープンイノベーションセンター・亀岡の事業が進められる中で、この大きな予算がついていくことになるが、事業成果が本当に亀岡市に反映するのか。また、O I C K収入として令和5年度3,600万円、令和6年度4,000万円、令和7年度4,500万円、令和8年度5,600万円とあり、その収入が亀岡市の補助金に影響するのかとの確認もあった。また、研究費の問題としてその収入がなければ研究費用が減少するような話もあった。食品開発センターは今のところ活用されていない施設であり、再生可能エネルギーについて、今後どのような形で進めていくのか。産学公の連携の中で、今後どのようにコラボされていくのかといった質疑もあった。そのような中でオープンイノベーションセンター・亀岡の最終的な展望が、今一つ見えてこない。本当に亀岡市が発展するようなことを展望して取り組まれているのか。その最終目的を市長に聞きたいということが、産業建設分科会の意見集約である。

<平本副議長>

執行部から事業説明があったものの、どのような成果を目指してやるかが明確には分からなかったということでしょうか。

<木村産業建設分科会委員長>

今後の最終的な目標が今一つ見えていないことがポイントである。

<富谷委員長>

以上で質疑を終了する。各分科会から出された市長質疑項目を全体会の市長質疑項目とすることに異議はないか。

(異議なし)

<富谷委員長>

異議なしと認めて、全体会としての市長質疑項目は決定した。

## 2 その他

<富谷委員長>

事務局より、予算特別委員会の今後の日程について説明願う。

<事務局長>

総務文教分科会において、3月20日(月)午前9時30分出発予定で現地視察を

実施いただく。視察場所は育親学園が建設される育親中学校に行ってくださいことになっている。なお、環境市民厚生分科会と産業建設分科会については、現地視察の実施はなかった。そして、午後1時から予算特別委員会全体会として市長等の理事者に出席いただき、市長質疑を実施いただく。市長質疑終了後、各分科会を開催いただき、委員間討議、討論、採決を順次行っていただく。続いて3月22日(水)午前11時から各分科会を開催いただき、委員長報告の確認を行っていただく。その後、午後の予定で全体会を開催し、各分科会委員長報告、質疑、委員間討議、そして会派会議をはさみ、討論、採決を行っていただき、予算審査は終了となる。予算特別委員会もいよいよ大詰めとなってきたが、よろしく願います。

<富谷委員長>

説明のとおり進めることとする。これで本日の予算特別委員会全体会を散会とする。

散会 10:53